授業科目名・形態	助産管理論　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	日沼　ゆかり・中嶋　真優美	実務経験の有無	有	開講期	４年前期
科目ナンバリング	N7-4013m				

【授業の主題】

助産管理に必要な理論、および助産業務の法的範囲と責任、安心して子供を産み育てるために多職種連携・協働しながら個人及び社会にとって必要な地域の社会資源の活用や調整を行う能力を養う。

【到達目標】

1. 助産業務管理に必要な法に基づく助産師の業務を理解する。
2. 助産業務の管理、助産所の運営の基本及び周産期医療システムを学び、周産期医療システムの運用と地域連携を行う必要性を理解する。
3. 病院・診療所・助産所等の場に応じた助産業務の特徴を理解する。
4. 周産期のおける医療安全の確保と医療事故への対応、平時の災害への備えと被災時の対応について理解する。
5. 住民の多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供できるための能力を養う。
6. 保健、医療、福祉と連携した地域における子育て世代を包括的に支援する能力を養う。

【授業計画・内容】

第１・２回　助産管理と助産業務管理　（日沼）
第３・４回　関係法規と助産師の義務・責任（医療法、保助看法等）
第５・６回　関係法規と助産師の義務・責任
（母子保健法、母体保護法、児童福祉法、地域保健法、戸籍法、刑法）　（日沼）
第７・８回　関係法規と助産師の義務・責任
（成育基本法、女性の支援に関わる関係法規、子どもの支援に関わる関係法規）　（日沼）
第９・10 回　周産期医療体制と地域連携　（日沼）
第 11・12 回　助産に関する医療安全と危機管理　（日沼）
第 13 回　事前課題発表と情報共有（グループワーク）　（日沼）
第 14・15 回　助産業務と助産所管理　（中嶋）

【授業実施方法】

講義形式で行います。
地域母子保健、関係法規等の事前学習課題があります。第 13 回の授業では、事前課題で学んだことを発表し合い主体的に対話的に知識を共有しさらに深い学びにつなげ合います。国家試験対策へ備えた事前課題でもあります。

【事前・事後学習】

レポート作成、課題学習、試験対策等含め 60 時間程度の自主学習を行い授業に臨んでください。
国試対策を意識した学習を行い国試対策に使える整理方法を考え頑張りましょう。

【主な関連する科目】

「看護マネジメント論」「助産学概論」「助産診断・技術学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「女性の健康支援」

【教科書等】

我部山キヨ子：助産学講座 9、地域母子保健・国際母子保健第 6 版：医学書院,
我部山キヨ子：助産学講座 10、助産管理第 6 版：医学書院,

【参考文献】

助産業務ガイドライン 2024、国民衛生の動向、厚生労働白書
福井トシ子、井本寛子：新版助産師業務要覧第 4 版 2024 年度版Ⅰ基礎編、Ⅱ実践編、Ⅲアドバンス編：日本看護協会出版会
成田伸：助産師基礎教育テキスト助産サービス管理第 3 巻：日本看護協会出版会、他

【成績評価方法】

グループワークでの協調性、積極性、事前課題の知識拡大への貢献等 20%、筆記試験 80%を総合評価します。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

二次医療圏の医療センターで、アドバンス助産師として、助産師育成の経験や認定看護管理者、医療安全管理者の資格をもち病院組織の管理者としてトップマネージメント等の経験あります。助産師業務管理、医療安全危機管理、地域連携等実務経験をふまえ、臨床事例を交ぜ理解が深まるような授業の工夫をします。

【学生へのメッセージ】

助産師や助産業務をめぐる社会的動向に合わせ対応できる助産師学生の育成を頑張ります。
積極的に授業に参加できるよう居心地のいい楽しい授業になるように心がけます。
適宜、意見交換をしますので、積極的に参加し自分の意見を活発に発表してください。
国家試験対策も一緒に考えて授業に入れていきます。